

「キャンプ砂防2026in利根川」が8月31日から9月4日までの5日間にわたり開催され、東京農業大学、群馬大学大学院、宮崎大学から、砂防分野に関心を持つ学生3名が参加しました。

期間中、学生たちは各現場を熱心に見学・体験し、新たな発見や気づきを楽しみながら学びを深めていました。なかでも、嬭恋村での意見交換会では、令和元年東日本台風で被害を受け、災害対応を行った地元の方々と活発に意見を交わし、砂防事業への理解と地域へ貢献、防災に関する知見を大きく広げていました。

プログラム最終日には、参加学生それぞれが成果をまとめたレポート発表を行い、いずれも発表資料が丁寧に作成されており、分かりやすく明快な内容で、今回の研修を通じて得られた学びの成果が、十分に感じられる発表となりました。



【キャンプ砂防】とは

国土交通省では、全国の直轄砂防事務所等における砂防工事や調査、中山間地域での生活等を体験できる場を全国の学生に提供しています。中山間地域が抱える課題、地域活性化・防災対策のあり方、砂防事業の意義・役割を考えることを通じて、高い職業意識を育成することを目的として平成8年度より実施されており、これまでに2,400名以上の学生の方々に参加していただいています。(2026年8月～9月)

キャンプ砂防2026参加者募集パンフレットより)

【5日間の主なプログラム】

- 砂防・地すべり・火山砂防に関する講話・事業説明
- 登録有形文化財の砂防堰堤の見学、ICT施工やソイルセメントを活用した砂防工事現場の見学
- UAV(ドローン)の操作体験
- 地すべり対策事業施設見学・集水井の点検
- 工事現場での品質確保・管理の実践
- 事務所若手職員との意見交換会
- 地元住民の方々との意見交換

初日「8/31(月)」開講式・榛名出張所管内



開講式



事務所長講話



榛名川上流砂防堰堤
(登録有形文化財)

2日目「9/1(火)」浅間山出張所管内



船ヶ沢東第一砂防堰堤
(ICT・ソイルセメント施工)



片蓋川砂防堰堤群



UAV(ドローン)操作体験

3日目「9/2(水)」地すべり対策事業



譲原防災センター



2号排水トンネル



集水井点検



アンカー工現場



若手職員との意見交換

4日目「9/3(木)」長野原出張所管内



地元の方々との意見交換会(嬬恋村)



大笹上流床固群



長井川原災害記念碑



ハツ場ダム

最終日「9/4(金)」レポート発表・閉校式

レポート発表



参加学生からの意見(抜粋)

○これまで大学の講義や研究では、土砂災害や砂防施設について図面や写真、実験などを通して学ぶことが多かった。しかし、実際の現場に立ってみると、構造物の大きさや周囲の地形、施工方法など、教室の中では分からないことが非常に多くあることに気づいた。

○嬬恋村で災害を経験した方々から直接話を聞いたことも非常に印象に残っている。災害について数字や写真から学ぶだけではなく、実際に経験した方の話を聞くことで、災害が人々の生活に与える影響をより身近に感じることができた。住民同士の協力や避難訓練が実際の避難行動につながったという話から、防災は行政や消防だけに任せるものではなく、地域住民一人ひとりが日頃から備えることが重要だと感じた。

○施工現場の見学によって、建設業界に対するイメージが大きく変わったことが印象的だった。ICT技術による作業の効率化だけでなく、快適トイレや休憩施設などの環境改善も進められており、働く人がより快適に仕事をできるような工夫がされていた。こうした取り組みは、建設業界が抱える人手不足を解決するためにも重要だと感じた。

○砂防事業は生活の安全に密接に関わっており大切だなと思った。砂防事業は大切で、恩恵を受ける住民の人たちの安全を考えるものだと思うけどそれと同等に砂防事業に従事する人の安全の確保が必要だと思う。実際に現場に行くと想像以上にきれいで、安全で、このことをもっと世間に発信することで若い人が入ってくるのかも知れない。また砂防事業の内容をもっと住民に発信した方が良かったと思った。